

弓削商船高等専門学校令和4年度(2021年度)年度計画に対する実績報告

【達成状況欄】 ◎:既に達成している ×:年度末時点で達成できない

令和3年度 年度計画 (高専名:弓削商船高等専門学校)	実績報告 ※コロナに係るものは赤字	達成状況 (R3年度末現在)	課題等 ※コロナに係るものは赤字
(1)入学者の確保 ①-1 入学希望者を対象としたホームページコンテンツ・パンフレット等の充実や、地域における中学校等への広報活動を行い、本校の特徴や魅力を発信する。 また、中学生及びその保護者等を対象に国公私立の高等専門学校が連携して合同説明会を開催することにより、組織的、戦略的な広報活動を行い入学者の確保に取り組む。	[学生募集対策委員会(教務係)] ・ホームページ、facebook、Instagramを活用して学校の様子を公開した。また、PR資料の作成及びホームページの充実を令和2年度中に行い、令和3年4月から広報活動を開始した。 ・令和2年度に作成したPRビデオ21本のうち1本を更新し、ホームページで配信した。 ・機構本部が主催する国公私立高専合同説明会(6月6日、7月11日)にリモートで参加した。	◎	
①-2 進路説明会、体験航海、出前授業、オープンキャンパス、学校説明会等の機会を活用することにより、入学確保のための国立高等専門学校及び本校の特性や魅力を発信する。	[学生募集対策委員会(教務係)] ・7月17日・18日のオープンキャンパスに加え、9月12日にリモートオープンキャンパスを実施した。11月6日・7日に第3回オープンキャンパスを実施した。 ・オープンキャンパス参加者数は延べ848名で、前年度の403名から210%の向上となった。 ・保護者向けLINEに133名が登録しており、質問を受け付けている。 ・中学校23校の進学説明会に参加した。9月にリモートによる中学校教員向け説明会を4回実施し、32校が参加した。 ・前年度は出前授業を10回実施し、弓削丸体験航海は実施できなかったが、今年度は出前授業を25回、弓削丸体験航海を6回実施しており、本校の特性や魅力を発信した。	◎	
②-1 女子中学生向け広報資料を活用した広報活動や高専女子フォーラム等の機会を活用することにより、女子学生の確保に向けた取組を推進する。	[学生募集対策委員会(教務係)] ・7月17日・18日に女子学生延べ62名の協力を仰ぎ、オープンキャンパスを実施した。 ・学校案内を作成し、女子寮のPRや女子学生、卒業生のインタビュー等を積極的に掲載した。 ・12月18日に開催された「2021年度 高専女子フォーラム in 中国・四国」に、商船学科2名、電子機械工学科2名、情報工学科4名の女子学生が参加した。 ・本校第一志望の女子志願者数が前年度比10%以上増加した。	◎	
②-2 留学生の確保に向けて、ホームページの英語版を充実し、高等専門学校教育並びに本校の特性や魅力について情報発信する。	[広報委員会(情報・広報係)] ・学校要覧を英語版ホームページへ掲載した。 ・Facilitiesの組織(Organization)と学生の概況(General Situation of Students)を追加し、施設(Facilities and equipment)を最新の状態に更新した。	◎	
③ 本校の入学選抜方法について、アドミッションポリシーを踏まえ検討する。 また、受験生の利便性を向上させるため、居住地の近くの高専で受験が可能となる「最寄り地受験」について、機構本部の方針に従って、段階的に導入する。	[入試委員会(教務係)] ・全国51高専とその他に設置されている会場のどこでも受験が可能な最寄り地受験制度を導入している。 ・アドミッションポリシーに適合した学生が入学するよう学生募集要項にアドミッションポリシーを掲載した。	◎	
①-1 本校の強み・特色を活かした教育課程の改善・再編について検討する。 商船学科の次世代海洋人材育成など将来構想についての検討を継続して行う。 練習船弓削丸の代替新造船(商船系高専二番船)を目指し、5校の商船系高専が引き続き連携をして、商船系高専一番船である新大島丸の概算要求及び建造計画を支援する。	[教務委員会(教務係)] ・地域創生演習1(3年生)、2(5年生)を開講し、離島工学に関わる事業として、①4月15日に島の漂着ゴミ調査、②10月4日～10月15日、12月6日～12月17日にスマホ教室③11月30日に防災講演会④12月15日、12月17日に救急救命講習会⑤11月3日から夢現塾をそれぞれ実施した。なお、かみじまパンフェス及び高齢者福祉施設でのボランティアはコロナの影響で中止となった。 ・商船学科においては、次世代海洋人材育成の一環として10月24日に学生によるwebイベントを実施した。また、10月14日、19日、11月11日、12月6日、7日、8日に体験航海を実施し、海事啓蒙活動を行った。	◎	

【達成状況欄】◎:既に達成している ×:年度末時点で達成できない

令和3年度 年度計画 (高専名:弓削商船高等専門学校)	実績報告 ※コロナに係るものは赤字	達成状況 (R3年度末現在)	課題等 ※コロナに係るものは赤字
①-2 専攻科において、大学と連携・協力し、大学の教育資源を有効に活用する。また、社会ニーズを踏まえた高度な人材育成に取り組むため、産業界等と連携した共同教育や、特色を活かした共同研究を実施する。	[専攻科委員会(教務係)] ・単位互換協定に基づき豊橋技術科学大学が実施しているeラーニングを7名が受講した。 ・12月11日に産学連携フォーラムを開催し、講演や研究発表による共同教育を実施した。 ・離島工学に関する研究として、①定置網漁法の効率化②岩城橋開通における交通管理システム③弓削島におけるPM2.5に関する研究を行った。 ・海上輸送システム工学専攻において、専攻科修了生の進路等について5商船高専の学科教員と意見交換を実施した。	◎	
②-1 学生が海外で活動する機会を後押しするために、海外留学や海外インターンシップを推進する。	[国際交流推進室(教務係)] ・今年度4月からカナダへ1名が2月からマルタ共和国へ1名が海外留学した。また、昨年度から引き続きニュージーランドへ1名が海外留学している。 ・協定校であるモンゴル科学技術大学へ3名の学生を派遣、2名の学生を受入れ、タイ王国ナコンパノム大学へ5名の学生を派遣する予定だったがコロナの影響で中止になった。 ・ハワイのカウアイコミュニティーカレッジ(KCC)の海外インターンシップに4名の学生がオンラインで参加した。	◎	
②-2 学生の英語力、国際コミュニケーション力の向上や海外に積極的に飛び出すマインドを育成する取組の改善・充実を検討する。	[国際交流推進室(教務係)] ・商船学科において、英会話教室を7月は毎週月曜日に、10月から1月は毎週月・木曜日に実施した。令和2年度にオンラインでハワイのカウアイコミュニティーカレッジ(KCC)の海外インターンシップに参加した学生の報告会を年度内に、実施予定であったがコロナの影響で中止になった。	◎	
③-1 学生の意欲向上や国立高等専門学校のイメージの向上に資する「全国高等専門学校体育大会」や、「全国高等専門学校ロボットコンテスト」等の全国的な競技会やコンテストに参加する。	[厚生補導委員会(学生支援係)] ・「全国高等専門学校体育大会」では、団体種目4クラブ、及び個人種目6クラブ21種目の出場資格を得た。その他「全国プログラミングコンテスト」に参加し、競技部門において優勝した。 ・1つのクラブにおいて、コロナの影響で全国高等専門学校体育大会の出場を辞退した。	◎	
③-2 学生に対し、ボランティア活動の参加意義や災害時におけるボランティア活動への参加の奨励等に関する周知を行う。また、単位認定などにより学生のボランティア活動への参加を推奨する。	[厚生補導委員会(学生支援係)] ・学生会と学生主事、学生主事補が計画し、学生による松原海岸における漂着ゴミ等の回収や弓削神社内及びその周辺の清掃を1回実施した。 ・防災リーダー育成研修会を11月30日に実施した。 [教務委員会(教務係)] ・電子機械工学科、情報工学科において地域創生演習1、2として単位認定することのできるボランティア活動への参加を推奨した。	◎	
③-3 学生に対して、「トビタテ！留学JAPAN」プログラムをはじめとする外部の各種奨学金制度等を積極的に活用できるよう情報収集の上提供し、学生の国際会議や「トビタテ！留学JAPAN」プログラムへの参加、海外留学等の機会の拡充を図る。	[国際交流推進室(教務係)] ・YFU高校生国際交流プログラム、EIL高校生交換留学プログラム「EILサポーター奨学金」、PIEE高校生留学プログラムなどの情報を学生に提供した。令和2年度にオンラインでハワイのカウアイコミュニティーカレッジ(KCC)の海外インターンシップに参加した学生の報告会を年度内に、実施予定であったがコロナの影響で中止になった。【再掲】	◎	
(3)多様かつ優れた教員の確保 ① 機構本部からの通知に従い、専門科目担当教員の公募において、応募資格の一つとして、博士の学位を有する者を掲げることを原則とし、多様かつ優れた教員を確保する。	[人事委員会(人事係)] ・情報工学科の公募において、博士の学位を有し、民間経験のある者を採用した。	◎	

【達成状況欄】 ◎:既に達成している ×:年度末時点で達成できない

令和3年度 年度計画 (高専名:弓削商船高等専門学校)	実績報告 ※コロナに係るものは赤字	達成状況 (R3年度末現在)	課題等 ※コロナに係るものは赤字
② クロスアポイントメント制度について周知する。	[人事委員会(人事係)] ・教職員に対し、グループウェア等で周知した。	◎	
③ ライフステージに応じた柔軟な勤務時間制度や同居支援プログラム等の取組を実施する。 また、女性研究者支援プログラム等により女性教員が働きやすい環境の整備を進める。	[人事委員会(人事係)] ・短時間労働制度を2名が利用しており、同居支援プログラムについては、学内に周知した。 [男女共同参画推進室(総務係)] ・女性教職員の意見交換会は、コロナの影響で開催中止とした。代替措置として女性教職員向けアンケート等を実施した。	◎	
④ 外国人教員の採用を継続する。	[人事委員会(人事係)] ・常勤教員1名、非常勤講師2名を雇用している。	◎	
⑤ 長岡技術科学大学及び豊橋技術科学大学との連携を図りつつ、両技術科学大学との教員人事交流制度について周知する。	[人事委員会(人事係)] ・学科長を通じ、各教員へ周知した。	◎	
⑥ ファカルティ・ディベロップメントを実施するとともに、学校の枠を超えた自主的な活動参加を推奨する。	[FD委員会(教務係)] ・相互授業参観を12月17日から1月26日までの間で実施した。 ・ISATEへ教員1名が参加した。 [人事係] ・各種研修案内を対象者へ周知し、参加した。 ・SPODの講師派遣プログラムを活用し、オンライン研修を実施し、教員41名、職員27名が参加した。 実施日:令和3年7月28日 研修名:効率的なeラーニングの活用法	◎	
⑦ 教育活動や生活指導などにおいて、顕著な功績が認められる教員や教員グループを国立高等専門学校教員顕彰に推薦する。	[総務係] ・国立高等専門学校教員顕彰の推薦者を選考するため、教員の自己評価・相互評価及び学生による教員評価を10月に実施し、11月に2名の教員を国立高等専門学校教員顕彰に推薦した。	◎	
(4) 教育の質の向上及び改善 ① デイプロマポリシー、カリキュラムポリシーの適切性を精査するとともに、モデルコアカリキュラムに基づく教育の実質化を進め、教育実践のPDCAサイクルを機能、定着させるため、以下の項目について重点的に実施する。併せて、本校の特性を踏まえた教育方法や教材などの共有化を進め、学びを止めることなくより良い教育を提供するための教育手法等を取り入れた授業の検討を行う。 [Plan] WEBシラバスにおけるルーブリックの明示による到達目標の具体化・共有化 [Do] アクティブラーニングの実施状況の確認と機構本部から紹介された好事例の共有 [Check] CBT(Computer-Based Testing)を用いた学習到達度の把握、学習状況調査及び卒業時の満足度調査の実施による教育効果の検証 [Action] 教育改善に資するファカルティ・ディベロップメント活動の推進	[教務委員会(教務係)] ・法学、情報処理1、情報処理2、計算機制御の4科目でeラーニングを導入した。 ・学習状況調査を10月末までで実施した。 ・商船学科及び海上輸送システム工学専攻において卒業時の満足度調査アンケートを実施した。 ・機械系科目のCBT作問を行った。	◎	
② 教育の質の向上に努めるため、自己点検・評価を行う。また、高等専門学校機関別認証評価結果について対応する。	[自己点検評価委員会(企画係)] ・「弓削商船高等専門学校における自己点検・評価に関する基本方針」に基づき、各自己点検・評価を実施した。また、令和2年度自己点検・評価報告書を11月に作成し、ホームページに掲載した。 ・外部委員による運営諮問会議を12月13日に開催した。 ・機関別認証評価結果において、改善を要する点として指摘された事項の改善状況を、7月1日の自己点検評価委員会にて報告した。	◎	

【達成状況欄】 ◎:既に達成している ×:年度末時点で達成できない

令和3年度 年度計画 (高専名:弓削商船高等専門学校)	実績報告 ※コロナに係るものは赤字	達成状況 (R3年度末現在)	課題等 ※コロナに係るものは赤字
③-1 地域や産業界が直面する課題解決を目指した課題解決型学習(PBL (Project-Based Learning))を継続する。	[教務委員会(教務係)] ・地域創生演習1(3年生)、2(5年生)を開講し、離島工学に関わる事業として、①4月15日に島の漂着ゴミ調査、②10月4日～10月15日、12月6日～12月17日にスマホ教室③11月30日に防災講演会④12月15日、12月17日に救急救命講習会⑤11月3日から夢現塾をそれぞれ実施した。【再掲】なお、かみじまパンプス及び高齢者福祉施設でのボランティアはコロナの影響で中止となった。【再掲】	◎	
③-2 産業界等と連携した教育コンテンツの開発を検討するとともに、インターンシップ等の共同教育を実施する。	[教務委員会(教務係)] ・インターンシップを実施し、延べ人数で商船学科23名、電子機械工学科67名、情報工学科39名が参加した。 ・高齢者福祉施設でのボランティアはコロナの影響で中止となった。【再掲】	◎	
③-3 セキュリティを含む情報教育について、教育内容の高度化に向けた取組を進める。	[情報処理教育センター] ・1年生を対象とした情報モラル講習を2回実施(4月7日、5月20日)した。また、全学生を対象とした情報モラル講習をmoodleで実施した。 [教務委員会(教務係)] ・商船学科は情報処理1、電子機械工学科は工作実習3、情報工学科は情報セキュリティで情報セキュリティに関する授業を実施した。	◎	
④ 高等専門学校教育の高度化に向けて、技術科学大学との連携・協議に参加し、ビデオ教材を活用した教育、教員の研修、技術科学大学との間の連携教育、人事交流などの分野で有機的な連携を検討する。	[就職指導委員会(学生支援係)] ・12月4日に開催したキャリア教育フォーラムにおいて、技術科学大学と学生との情報交換を行った。 [人事委員会(人事係)] ・学科長を通じ、各教員へ周知した。【再掲】	◎	
(5)学生支援・生活支援等 ① 学生相談体制の充実のため、カウンセラー及びソーシャルワーカー等の専門職の有機的な配置を検討するとともに、機構本部が実施する、障害を有する学生への支援を含めた学生指導に関する研修に参加する。	[学生相談室(学生支援係)] ・学生指導支援体制の充実を図るため、カウンセラーは週4日、スクールソーシャルワーカーは週1日、相談員は週1日、非常勤看護師は週5日の雇用を継続した。 ・全国国立高等専門学校学生支援担当教職員研修に3名出席した。	◎	
② 高等教育の修学支援新制度の周知を徹底するとともに、各種奨学金制度に係る情報提供をすることで学生支援を充実させる。	[厚生補導委員会(学生支援係)] ・各種奨学金制度の積極的な活用を促進するため、掲示や郵送による学生や保護者への案内に加えて、学生を対象とした奨学団体などの情報をホームページに掲載した。	◎	
③ 低学年からのキャリア教育を検討するとともに、企業情報、就職・進学情報などの提供体制・相談方法を含めたキャリア支援の充実を図る。また、次年度以降のキャリア支援体制を充実させるため、卒業時にキャリア支援も含めた満足度調査を実施するとともに、卒業生の情報を活用するネットワーク形成のため同窓会等との連携を強化する。	[就職指導委員会(学生支援係)] ・12月4日に3・4年生を対象とした「キャリア教育フォーラム」を開催した。保護者の参加については、コロナの影響で不可とした。 ・次年度以降のキャリア支援体制を充実させるため、卒業時のアンケートを実施した。さらに既卒者および就職企業に対する卒業後のアンケート調査について検討した。 [初年次教育支援室(教務係)] ・1年生を対象に4月、10月に行ったアンケートに進路に関する項目を設け、学級担任が学生指導や保護者懇談会での面談に活用した。	◎	

【達成状況欄】◎:既に達成している ×:年度末時点で達成できない

令和3年度 年度計画 (高専名:弓削商船高等専門学校)	実績報告 ※コロナに係るものは赤字	達成状況 (R3年度末現在)	課題等 ※コロナに係るものは赤字
1. 2 社会連携に関する事項 ① 教員の研究分野や共同研究・受託研究の成果などの情報を、広報資料やホームページなどにより発信する。	[地共研センター(企画係)] ・学校要覧及び本校ホームページに共同研究・受託研究等の受入状況や全教員の研究・技術シーズを掲載した。	◎	
② 高専リサーチアドミニストレータ(KRA)や四国地区高専地域イノベーションセンター、国立高等専門学校間の研究ネットワーク等を活用し、産業界や地方公共団体との新たな共同研究・受託研究の受入れを促進するとともに、効果的技術マッチングのイベント等でその成果の情報発信や知的資産化など社会還元努める。	[地共研センター(企画係)] ・本校の技術シーズの紹介や企業との情報交換を目的とした産学連携フォーラムを12月11日に開催した。 ・第4ブロックで形成する各種の研究会に4名が参画している。また、令和3年度第4ブロック研究助成課題として3件(5名が参画)が採択された。 ・共同研究、受託研究の新規受入は各1件の計2件であった。 ・研究助成(公募型共同研究含む)の新規受入は6件であった。	◎	
③-1 情報発信機能を強化するため、報道機関等との関係構築に取り組む。	[広報委員会(情報・広報係)] ・地元新聞の、担当者と名刺交換を行った。 ・マスコミ関係の掲載情報数について、機構本部に36件の報告を行った。 [総務課(総務係)] ・その他4月の入学式、9月の商船学科卒業式・専攻科修了式及び創基120周年記念式典について、地元新聞社と連携を図り、記事が掲載された。	◎	
③-2 ホームページや報道機関への情報提供等を通じて、地域連携の取組や学生活動等の様々な情報を社会に発信するとともに、報道内容及び報道状況を機構本部に随時報告する。	[広報委員会(情報・広報係)] ・InstagarmとFacebookそれぞれに295件の投稿をした。Facebookいいね数1056件、Instagramフォロワー数880件、またYoutube登録数は245件であった。 [総務課(総務係)] ・4月の入学式、9月の商船学科卒業式・専攻科修了式及び創基120周年記念式典について、地元新聞社と連携を図り、記事が掲載された。【再掲】	◎	
③-1 学生が海外で活動する機会を後押しするために、海外留学や海外インターンシップを推進する。【再掲】	[国際交流推進室(教務係)] ・今年度4月からカナダへ1名が2月からマルタ共和国へ1名が海外留学した。また、昨年度から引き続きニュージーランドへ1名が海外留学している。【再掲】 ・協定校であるモンゴル科学技術大学へ3名の学生を派遣、2名の学生を受入れ、タイ王国ナコンパノム大学へ5名の学生を派遣する予定だったがコロナの影響で中止になった。【再掲】 ・ハワイのカウアイコミュニティカレッジ(KCC)の海外インターンシップに4名の学生がオンラインで参加した。【再掲】	◎	
③-2 学生の英語力、国際コミュニケーション力の向上や海外に積極的に飛び出すマインドを育成する取組の改善・充実を検討する。【再掲】	[国際交流推進室(教務係)] ・商船学科において、英会話教室を7月は毎週月曜日に、10月から1月は毎週月・木曜日に実施した。【再掲】 ・令和2年度にオンラインでハワイのカウアイコミュニティカレッジ(KCC)の海外インターンシップに参加した学生の報告会を年度内に、実施予定であったがコロナの影響で中止になった。【再掲】	◎	
③-3 学生に対して、「トビタテ！留学JAPAN」プログラムをはじめとする外部の各種奨学金制度等を積極的に活用できるよう情報収集の上提供し、学生の国際会議や「トビタテ！留学JAPAN」プログラムへの参加、海外留学等の機会の拡充を図る。【再掲】	[国際交流推進室(教務係)] ・YFU高校生国際交流プログラム、EIL高校生交換留学プログラム「EILサポーター奨学金」、PIEE高校生留学プログラムなどの情報を学生に提供した。令和2年度にオンラインでハワイのカウアイコミュニティカレッジ(KCC)の海外インターンシップに参加した学生の報告会を年度内に、実施予定であったがコロナの影響で中止になった。【再掲】	◎	
④-1 留学生の確保に向けて、ホームページの英語版資料を充実し、高等専門学校教育並びに本校の特性や魅力について情報発信する。	[広報委員会(情報・広報係)] ・学校要覧を英語版ホームページへ掲載した。【再掲】 ・Facilitiesの組織(Organization)と学生の概況(General Situation of Students)を追加し、施設(Facilities and equipment)を最新の状態に更新した。【再掲】	◎	

【達成状況欄】 ◎:既に達成している ×:年度末時点で達成できない

令和3年度 年度計画 (高専名:弓削商船高等専門学校)	実績報告 ※コロナに係るものは赤字	達成状況 (R3年度末現在)	課題等 ※コロナに係るものは赤字
⑤ 教員や学生の国際交流の際に、海外旅行保険に加入させる等の安全面への配慮を行う。 また、外国人留学生の学業成績や資格外活動の状況等の的確な把握や適切な指導等の在籍管理に取り組む。	[学生課(教務係)] ・インターンシップに参加する学生は、インターンシップ・ボランティア等体験活動賠償保険に加入した。 ・毎月初めに留学生の在籍確認を行った。	◎	
2. 業務運営の効率化に関する事項 2.1 一般管理費等の効率化 高等専門学校設置基準により必要とされる最低限の教員の給与相当額及び各年度特別に措置しなければならない経費を除き、運営費交付金を充当して行う業務については、中期目標の期間中、毎事業年度につき一般管理費(人件費相当額を除く。)については3%、その他は1%の業務の効率化を図る。	[総務課(財務係)] ・運営費交付金を充当して行う業務については、当年度特別に措置される経費を除き、機構本部から配分のあつた予算(管理運営費規定分△3%)の範囲内で当初配分を行った。	◎	
2.3 契約の適正化 業務運営の効率性及び国民の信頼性の確保の観点から、随意契約の適正化を推進し、契約は原則として一般競争入札等によることとする。 さらに、引き続き「独立行政法人における調達等合理化の取組の推進について(平成27年5月25日総務大臣決定)」に基づく取組を着実に実施することとし、入札及び契約の適正な実施について監査を受ける。	[総務課(財務係、契約係)] ・随意契約の適正化を推進し、契約は原則として一般競争入札等によることとしている。 ・引き続き「独立行政法人における調達等合理化の取組の推進について(平成27年5月25日総務大臣決定)」に基づく取組を実施している。	◎	
3. 予算(人件費の見積もりを含む。)、収支計画及び資金計画 3.1 戦略的な予算執行・適切な予算管理 校長のリーダーシップのもと、本校における教育上の自主性や強み・特色などの機能強化を後押しするため、予算配分方針をあらかじめ定め、各部署に周知する等、透明性・公平性を確保した予算配分に努める。 また、独立行政法人会計基準の改訂等により、運営費交付金の会計処理として、業務達成基準による収益化が原則とされたことを踏まえ、引き続き、収益化単位の業務ごとに予算と実績を管理する。	[総務課(財務係)] ・予算配分方針を運営委員会で決定し、各部署に周知する等、透明性・公平性を確保した予算配分を行った。 ・収益化単位の業務ごとに予算と実績の管理を行った。	◎	
3.2 外部資金、寄附金その他自己収入の増加 社会連携活動の推進等を通じ、共同研究、受託研究等を促進し、外部資金の獲得の増加を図る。また、卒業生が就職した企業、同窓会等との交流を図り、寄附金の獲得に努める。	[地共研センター(企画係)] ・外部資金の獲得を推進するため、研究助成事業等に関する情報共有を随時行った。 ・科研費レビューは、科研費の採択率の向上を目的とし、各学科から推薦された4名の教員へ個別に実施した。 ・共同研究、受託研究の新規受入は各1件の計2件であった。【再掲】 ・研究助成(公募型共同研究含む)の新規受入は6件であった。【再掲】 ・科研費の申請率は50%であった。	◎	
8. その他主務省令で定める業務運営に関する事項 8.1 施設及び設備に関する計画 ①-1 「国立高等専門学校機構施設整備5か年計画」(令和3年3月決定予定)及び「国立高等専門学校機構インフラ長寿命化計画(個別施設計画)2018」(平成31年3月決定)に基づき、新しい時代にふさわしい国立高等専門学校施設の機能の高度化や老朽施設の改善などの整備を推進し、施設マネジメントに取り組む。	[施設整備等検討委員会(施設係)] ・高専5か年計画に基づく学寮のライフライン整備については、令和2年12月25日に契約、令和3年3月31日、令和3年7月27日及び令和3年10月18日に変更契約を締結し、令和4年3月10日に工事を完了した。 ・令和3年7月7日及び令和3年10月18日に施設整備等検討委員会を開催し、概算要求に向けて施設・設備の整備について策定及び報告を行った。	◎	
①-2 施設の新構造部材の耐震化については、引き続き、計画的に対策を推進する。	[施設整備等検討委員会(施設係)] ・施設の新構造部材の耐震化については、施設整備費補助事業をはじめ、仕様にも反映させ、各工事毎に実施した。 ・施設の新構造部材の耐震化の現況について令和3年5月11日に実態調査を実施し、令和4年度概算要求事業(施設整備関係)の内容に反映させた。	◎	
② 学生及び教職員に、「実験実習安全必携」を周知するとともに、安全衛生管理のための各種講習会に参加する。	[安全衛生委員会(人事係)] ・中国四国地区国立大学法人等労働安全衛生協議会へ2名、防火管理講習へ1名が参加した。 ・学生および教職員に対し、「実験実習安全必携」を周知した。	◎	

【達成状況欄】◎:既に達成している ×:年度末時点で達成できない

令和3年度 年度計画 (高専名:弓削商船高等専門学校)	実績報告 ※コロナに係るものは赤字	達成状況 (R3年度末現在)	課題等 ※コロナに係るものは赤字
<p>③ 科学技術分野への男女共同参画を推進するため、女子学生の利用するトイレ等の設置やリニューアルなど、修学・就業上の環境整備を計画的に推進する。</p>	<p>[施設整備等検討委員会(施設係)] ・「図書館棟改修」、「代船建造に伴う棧橋改修」及び「ライフライン再生(中水設備)」について概算要求した。 ・5部構成によるキャンパスマスタープラン原案の作成作業を進めた。</p> <p>[男女共同参画推進室(総務係)] ・女子学生の利用するトイレ等の設置やリニューアルなど、修学・就業上の環境整備について、施設整備等検討委員会とも連携し、検討した。</p>	◎	
<p>8. 2 人事に関する計画 (1)方針 教職員ともに積極的に人事交流を進め多様な人材の育成を図るとともに、各種研修に計画的に参加し資質の向上を図るため、以下の取組等を実施する。 ① 課外活動、寮務等の見直しとして、外部人材やアウトソーシング等の活用を検討する。</p>	<p>[厚生補導委員会(学生支援係)] ・課外活動における教員の負担軽減に向け、茶道、剣道、テニス、ソフトテニスにおいて技術指導を外部人材に委嘱した。</p> <p>[寮務委員会(寮務係)] ・寮務の見直しとして、日直及び男子寮宿直業務担当の非常勤職員(学生寮指導員)1名を昨年度から継続雇用しているが、更に教員の負担軽減に向け、非常勤職員の増員について予算要求を行った。</p>	◎	<p>[寮務委員会(寮務係)] ・非常勤職員の雇用により改善したものの月に複数回宿日直に入る教員もいるためさらなる改善が必要である。</p>
<p>③ 若手教員確保のため、教員人員枠の流用について検討する。</p>	<p>[人事委員会(人事係)] ・人事委員会にて検討し、教員公募を実施している。</p>	◎	
<p>④-1 機構本部からの通知に従い、専門科目担当教員の公募において、応募資格の一つとして、博士の学位を有する者を掲げることを原則とし、多様かつ優れた教員を確保する。【再掲】</p>	<p>[人事委員会(人事係)] ・情報工学科の公募において、博士の学位を有し、民間経験のある者を採用した。【再掲】</p>	◎	
<p>④-2 クロスアポイントメント制度について周知する。【再掲】</p>	<p>[人事委員会(人事係)] ・教職員に対し、グループウェア等で周知した。【再掲】</p>	◎	
<p>④-3 ライフステージに応じた柔軟な勤務時間制度や同居支援プログラム等の取組を実施する。 また、女性研究者支援プログラム等により女性教員が働きやすい環境の整備を進める。【再掲】</p>	<p>[人事委員会(人事係)] ・短時間労働制度を2名利用しており、同居支援プログラムについては、学内に周知した。【再掲】</p> <p>[男女共同参画推進室(総務係)] ・女性教職員の意見交換会は、コロナの影響で開催中止とした。代替措置として女性教職員向けアンケート等の実施した。【再掲】</p>	◎	
<p>④-4 外国人教員の採用を継続する。【再掲】</p>	<p>[人事委員会(人事係)] ・常勤教員1名、非常勤講師2名を雇用している。【再掲】</p>	◎	
<p>④-5 シンポジウム、研修会、ニューズレターの配付等を通じて、男女共同参画やダイバーシティに関する意識啓発を図る。</p>	<p>[男女共同参画推進室(総務係)] ・6月に本校2年生及び教職員対象の男女共同参画講演会をオンラインにて開催した。 ・11月に開催した第6回第4ブロック男女共同参画推進担当者協議会に出席した。</p>	◎	

【達成状況欄】 ◎:既に達成している ×:年度末時点で達成できない

令和3年度 年度計画 (高専名:弓削商船高等専門学校)	実績報告 ※コロナに係るものは赤字	達成状況 (R3年度末現在)	課題等 ※コロナに係るものは赤字
<p>⑤ 教職員の積極的な人事交流を進め、多様な人材育成を図るとともに、各種研修を計画的に実施し資質の向上を推進する。</p>	<p>[人事委員会(人事係)] ・人事交流について学科長を通じ、各教員へ周知・調査している。【再掲】 ・各種研修についても、案内を対象者へ周知し、参加している。【再掲】 ・SPOD講演会参加教員数が64%から80%に増加した。</p> <p>[FD委員会(教務係)] ・6月28日・29日の国立高等専門学校新任教員研修会に2名参加した。10月8日・27日、11月18日の高等専門学校中堅教員研修会に2名参加した。</p>	◎	
<p>(2) 人員に関する指標 常勤職員について、その職務能力を向上させつつ業務の効率化を図り、適切な人員配置に取り組む。</p>	<p>[総務課(人事係)] ・愛媛大学との人事交流を継続するとともに、高専間の人事交流については引き続き検討を行った。 ・各種研修会案内を対象者へ周知し、参加した。</p>	◎	
<p>8.3 情報セキュリティについて 全教職員の情報セキュリティの意識向上を図るために、機構本部が実施する情報セキュリティ教育(e-learning)及びインシデント対応訓練等に参加する。また、情報担当者を対象とした情報セキュリティに関する研修、管理職を対象とした情報セキュリティトップセミナーに参加する。 初期対応徹底のために「すぐやる3箇条」の周知を継続して行い、情報セキュリティインシデントの予防および被害拡大を防ぐための啓発を実施する。</p>	<p>[情報処理教育センター] ・教職員を対象とした機構本部主催のインシデント対応訓練を2回実施(9月、11月)した。</p>	◎	

【達成状況欄】◎:既に達成している ×:年度末時点で達成できない

令和3年度 年度計画 (高専名:弓削商船高等専門学校)	実績報告 ※コロナに係るものは赤字	達成状況 (R3年度末現在)	課題等 ※コロナに係るものは赤字
8.4 内部統制の充実・強化 ①-1 校長のリーダーシップのもと、責任ある意思決定を実現するため、定期的に運営委員会を開催する。	[運営委員会(総務係)] ・運営委員会を毎月開催し、学校運営及び教育活動に関する案件を審議し、決定した。	◎	
①-2 校長・事務部長会議その他の主要な会議について運営委員会で課題や方針の共有を図る。	[総務課(総務係)] ・令和3年度第1回及び第2回高専機構校長・事務部長会議の内容について、校長が運営委員会にて報告を行い、法人としての課題や方針の共有を図った。	◎	
①-3 機構本部に対し、各種会議を通じ、必要に応じ、本校の状況、意見等を発信する。	[総務課(総務係)] ・運営委員会を毎月開催し、学校運営及び教育活動に関する案件を審議し、決定した。 ・ リスク管理室会議を開催し、危機事象(新型コロナウイルス感染症等)に関する学内の方針及び対応案を決定した。	◎	
②-1 法人全体の共通課題に対する機構のマネジメント機能を強化するため、理事長との面談等に対応する。	[総務課(総務係)] ・7月に理事長ヒアリングに係る資料を提出し、7月16日に校長が理事長ヒアリング(オンライン)に出席した。	◎	
②-2 コンプライアンス・マニュアル及びコンプライアンスに関するセルフチェックリストの活用や、教職員を対象とした階層別研修等に参加することにより教職員のコンプライアンスの向上を行う。	[リスク管理室(総務係)] ・12月に教職員を対象としたコンプライアンスに関するセルフチェックを実施した。	◎	
②-3 事案に応じ、機構本部と十分な連携を図り、速やかな情報の伝達・対策などを行う。	[総務課(総務係)] ・事案に応じ、機構本部と十分な連携を図り、速やかな情報の伝達・対策などを行った。	◎	
③ 内部監査及び相互監査で発見した課題について、速やかに対応を行う。	[総務課(総務係)] ・12月に監事監査・内部監査を実施した。 [総務課(財務係)] ・内部監査等での本校に対する指摘事項は特になかったが、前年度の会計監査人の監査覚書や相互会計内部監査の指摘事項一覧について情報共有を行った。	◎	
④ 平成23年度に策定された「公的研究費等に関する不正使用の再発防止策」の確実に実施する。加えて、機構本部が開催する研究担当責任者を対象としたWeb会議に参加するとともに、本校の教職員に対して研究費の適切な取扱いに関する注意喚起等を行う。	[総務課(財務係)] ・平成23年度に策定された「公的研究費等に関する不正使用の再発防止策」を実施している。 ・11月に教職員対象の「公的研究費等の取扱いに関する説明会」を実施した(受講率100%)。	◎	
⑤ 機構の中期計画及び年度計画を踏まえ、本校の年度計画を定める。また、その際には、本校及び各学科の特性に応じた具体的な成果指標を設定する。	[中期計画推進室(企画係)] ・高専機構の中期計画及び年度計画を踏まえ、本校の年度計画を定めた。また、各項目の内容に応じて、具体的な成果指標を設定した。	◎	